

ロク(ROKU)

【セクター】 インターネット

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

ネット動画サービスをテレビに表示する機器の「プレーヤー」事業と様々な動画サービスをまとめて表示することで広告収入を得る「プラットフォーム」事業を提供しています。プレーヤー事業では、TVに接続する機器のほか、これをTVに組み込んだ「Roku TV」を販売します。19年12月期の売上と粗利の構成比は「プラットフォーム」事業が66%、97%、「プレーヤー」事業が34%、4%で、「プラットフォーム」事業が収益の中心です。社名のロクは創業者がつくった6番目の会社であることに由来します。

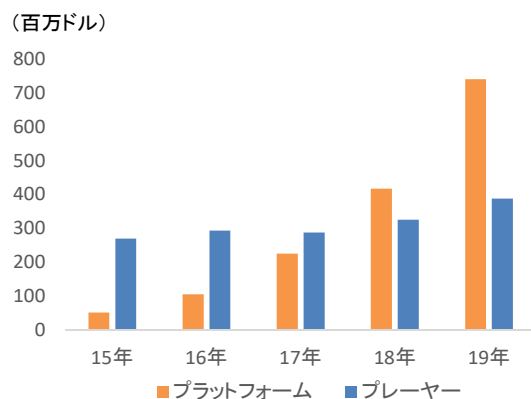
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
18年12月期	743	-7.7	-0.07	0.00	2.2	-3.9	52.6
19年12月期	1,129	-59.3	-0.51	0.00	7.6	-12.6	47.5
20年12月期予想	1,492	-197.6	-1.61	0.00	5.2	-32.3	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

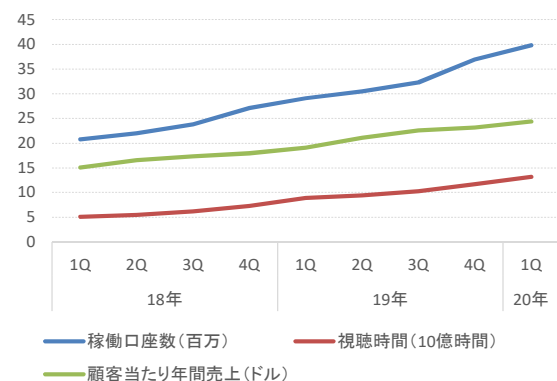
【主要指標】

図表1 部門別売上の推移



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 重要経営指標



（出所）会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

インターネットによる動画配信サービスの「アグリゲーター」（まとめ役）として、従来型テレビからテレビ視聴がシフトする中で成長できる企業と期待されます。Netflix、Hulu、Amazonプライム・ビデオ、Disney+、アップルTV+、HBO Nowなど動画配信サービスがどんどん増える中、消費者の多くが複数のサービスを契約していることから、一つの画面にまとめて表示するアグリゲーターが介在できる環境にあると考えられます。同社プラットフォームの稼働口座数、視聴時間、顧客当たり売上は増加が続いています（図表2）。

【見通し・注目点】

20年1-3月期決算は、プラットフォーム事業が前年同期比73%伸びて売上が前年同期比55%増、アクティブアカウント数が3,980万人となって同37%増、ストリーミング時間が同49%増、ユーザー当たりの売上が同28%増など順調な拡大を示しています。一方、COVID-19による影響は3月から自宅待機の影響が大きい、旅行、ファーストフード、劇場、自動車業界の広告キャンセルという形で出ています。会社は従来型テレビ放送から広告出稿の再配分が進む可能性があり、長期的にはネガティブな面ばかりではないとしています。

（SBI証券 投資情報部 榮 聡）

（更新日 20/5/25）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。